



くりばやし たくや さん／平成6年9月生まれ／津別町役場勤務

青春

くろーずあっぷ

今年の4月から津別町役場に派遣された栗林拓矢さん。住民企画課企画係に所属し、地方創生など町づくりに関する業務を担当しています。札幌市出身の栗林さん。高校卒業後は、鹿児島大学に進学しました。北海道の職員になった理由は、全道各地の地域に行き、北海道をより良くしたかったと話します。

今年で人が減るのかなあ。もったいない」と感じたそうです。また、「2年間と限られた時間の中ですが、今後の津別の暮らしの部分で、来てもらってよかったと言ってもらえるように頑張ります」と意気込みを語ってくれました。最近の楽しかった出来事は、チミケツプ湖でバーベキューをしたことを話してくれました。休日は、テレビゲームや日帰りでドライブをするのが趣味だそうです。

温故知新

【529】

製麺職人が語る 40年間の軌跡

手賀 武一 さん



たけいち さん／昭和18年6月、湧別町生まれ／79歳／東町在住

「製麺の仕事をしていたときは、常に時間に追われていた。忙しい時期は休まず作業し、人の倍は働いた」と思っている」と、当時を振り返る手賀武一さん。40年間作り続けた手賀さんの麺は、多くの人に愛されてきました。

湧別町出身の手賀さんは、地元の中学校を卒業後、遠軽や北見で社会人経験を積み、26歳のときに津別の阿部製麺で働き始めます。午前3時には起床し、5時間かけて製麺作業をしていました。その後、町内の飲食店や阿寒のホテルなど、多くの取扱店に配達をし、すべての

作業が終わる時間は、午後5時頃だったそうです。また、夏の繁忙期には、麺の製造を追加で行っていたそうです。「振り返ってみると、毎日が忙しく趣味などに割く時間が全然なかった」と当時を述べます。5時間かけて行っていた製麺は、とても繊細な作業でした。例えるならば、生き物を扱うようなものと話す手賀さん。天気によって使用する水の量が変わるため、長年の経験と勘で調整をしていたそうです。「小麦粉と水を機械で混ぜ合わせただけ、手で握った感触を頼りに追加する分量を決めていた」と職人技を発揮。その感覚を身に付けるまでには、10年以上もの年月を要したそうです。阿部製麺で働いて30年が経ったとき、勤務先の代表である阿部さんが引退。その後、店名を手賀製麺に変え、前任者から継承した意思や技術などを10年にわたって守り続けました。「製麺の仕事に携わっていた40年間は、毎日が忙しくてあつという間に過ぎていた。この仕事は心ゆくまで十分にやった。一切の悔いはない」と話す手賀さん。病気になることなく働き続けた原動力の源は、お客さんからの「おいしい」の言葉だったそうです。

Profile



さとう ゆうな さん
佐藤 優奈 さん

美幌町出身
津別高等学校3年生
趣味 読書
特技 ダンス

青春クローズアップの編集者から一言

6月22日に職場実習生として住民企画課の仕事を体験した佐藤優奈さん。今回の青春クローズアップは、佐藤さんが原稿を書き上げました。編集に対する意気込みなどをご紹介します。

◆取材をした感想は？

話してくれている人の言葉を聞き取り、分かりやすくまとめるのは大変だと思いました。

◆編集時のポイントは？

いかに分かりやすく簡潔的に文章を作れるかを考えて編集しました。

◆役場の仕事を体験した感想は？

本当に大変だけど、やりがいを感じる事ができる職業だと実感する事ができました。

◆今後の目標は？

今後は、自分の進路に向けて一生懸命勉強に励もうと思っています。

税

町税等の納付が便利になりました！

令和4年度から従来の口座振替に加えて、コンビニ収納や各種スマホアプリの利用が可能となりました。『昼間は仕事があるから銀行に行けない』『納付書をなくしてしまう』などの方は、それぞれのライフスタイルに合った納付方法をご利用ください。

口座振替は、金融機関での手続きさえ済ませておけば、納期ごとに預金口座から自動で納税することができ、手続きは、町内金融機関窓口にて、通帳と印鑑を持参の上「町の税金の口座振替をしたい」とお申し出ください。現金で納税したい方は、北見信用金庫、網走信用金庫、津別町農業協同組合、北海道内全ての郵便局、納付書の裏面に記載されたコンビニエンスストアおよび津別町役場で納付することができます。

各種スマホアプリでの納税については、納付書の裏面を確認の上、ご利用ください。

なお、金融機関窓口が閉まった後でも、津別町役場の窓口は午後5時15分まで受け付けています（納付書の再発行もできます）。ぜひご利用ください。

問い合わせ先
税務収納係10番窓口
☎77-8376